

作物名：トマト

病害虫名：白星病（病原：*Septoria lycopersici*）

1 被害の特徴と診断のポイント

- 外主に葉に発生する。はじめ葉の裏面に水浸状の円形小斑点を生じ、拡大して表面にも現れ、周縁暗褐色で中心部が灰白色の円形病斑となり、のちその表面に黒色の小粒点（柄子殻）を散生する。葉縁は上方に巻き上がる。
- 葉柄に同様の病斑を形成すると垂れ下がる。まれに茎も侵され、葉とほぼ同様の病斑を生ずる。病勢が進むと、発病葉は黄変し、下部からしだいに落葉するため、果実は直射日光を受けて日焼けしやすくなる。



写真1 葉の病斑

2 伝染源・伝染方法

- 発病葉等の残渣とともに越冬し、分生子（柄孢子）の飛散によって第一次伝染する。その後は、発病葉の病斑上に形成された分生子の飛散によって二次伝染を繰り返す。

3 発病しやすい条件

- 本菌は糸状菌の一種で、不完全菌類に属し、柄子殻及び分生子を形成する。分生子は無色、円筒形または棍棒状で、両端が細く、多少湾曲するものもある。大きさは $70\sim 110\times 3.3\mu\text{m}$ で、多数の隔壁を有する。
- 菌の生育適温は 25°C である。発病適温 $22\sim 26^{\circ}\text{C}$ で、多湿条件で発生する。

4 防除方法

- 本病に対する登録薬剤はないので、発病を認めたら、罹病葉は摘み取り処分する。

5 出典

(1) 参考文献

- 日本植物病害大辞典（全農教）

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影



写真2 葉の黄変

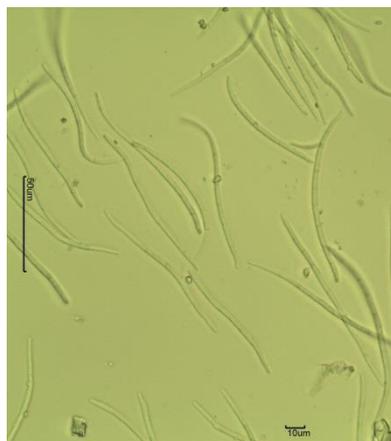


写真3 白星病菌の分生子（柄孢子）